

登下校中の事件・事故ゼロを目指して

— もう一度確認しよう 自分で みんなで 気を付けたいこと —



防犯対策

“自分の身は自分で守る”
という気持ちを持とう

こんなところに気を付けよう!

- 危険な人は見た目では分かりません。
- よく通る場所を歩いて、安全な場所や危険な場所をチェックし、いざというときの対応をイメージしておきましょう。
- 1人である子どもは狙われやすいので、通学路などで1人になってしまうときは、時々周囲を見回して警戒しましょう。
- 防犯ブザーはいつでも鳴らせる場所に身に付けましょう。
- いざというときのために、「助けて」と大声を出す練習をしておきましょう。
- 声を掛けられたときのために、「イヤです」などはっきり断る練習をしておきましょう。

Check!



覚えよう!5つの約束

いかのおすし



いかない のらない おおごえをだす すぐにげる しらせる

「危険な場所」ってどんな場所?

だれもが「入りやすい」場所

犯罪者が誰にも怪しまれず、簡単に子どもに近づけて逃げやすい場所

例：路上、トンネル、公園、公衆トイレ、電車内、駅、駐車(輪)場 など



だれからも「見えにくい」場所

犯行が目撃されにくく、通報されなさそうな場所

例①：物理的に「見えにくい」場所

- ・高い塀や木など、人の視線を遮るものがある場所
- ・周りに何も無い人の視線がない場所



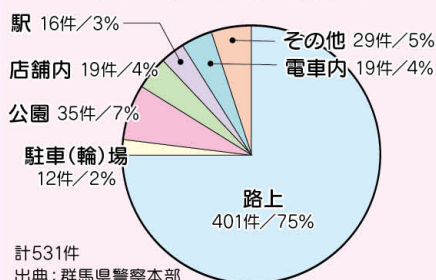
例②：心理的に「見えにくい」場所

- ・落書き、雑草の放置、ゴミのポイ捨てがされているなど、地域が無関心な場所
- ・広場やデパートなど、不特定多数の人が集まる場所



県内の不審者認知状況

(子ども対象・場所別・平成30年)



18歳以下の子どもに対して、声掛けやつきまとい、公然わいせつなどの事案が発生した場所を示したものです。「入りやすい」「見えにくい」場所で事案が多く発生していることが分かります。

子どもたちを地域で守る

登下校中のトラブルから子どもを守るためには、「地域の目」が欠かせません。学校・地域が連携して、登下校中の見守り活動を行っています。

地域の皆さんからの「いってらっしゃい」「おかえり」などの声掛けが、子どもたちの安全・安心につながっています。

写真：前橋市立気井小学校の見守り活動の様子



誰でもできる 見守り活動

地域の方々が、登下校の時間帯に外に出て買い物や散歩、ジョギング、庭掃除などをするだけでも、「地域の目」として活動することができます。

特別なことは必要ありません。地域全体で子どもたちを守っていきましょう。